

地域社会との緊密な連携を築く

家庭・学校・地域が力をあわせて

南知多町立豊浜小学校 P T A

1 はじめに

豊浜小学校は、知多半島の最南端南知多町の中央部に位置し、主に漁業と観光の街にある唯一の小学校である。平成20年、隣接の豊丘小学校との統合に伴い、学区は、伊勢湾側の豊浜地区と三河湾側の豊丘地区の大きく二つに分けることができる。豊浜地区は漁港を中心にした観光と海産市場のある漁師町で、鯛まつりでも有名な地区である。一方、豊丘地区は三河湾に面した磯の香りと花の香りが特徴の町で、潮干狩りやコスモス街道でも有名な地区である。(以下、豊浜地区と豊丘地区を合わせて豊浜地区とする)

児童数は156人で、学級数は特別支援学級を含めて8学級の小規模校である。

2 研究への取組

(1) 研究の組織

本校のP T Aは会長の下、役員として、副会長2名(母親代表1名を含む)書記2名(教頭・教務主任)、会計2名(校務主任を含む)監査・顧問4名(校長を含む)の11名で構成されている。

他に、各地区から選出されたP T A委員14名が研修部、広報部、生活部、総務部のいずれかに所属する形で、活動の中心となっている。



【南知多町立豊浜小学校】

(2) 研究のねらい

子どもたちの健やかな成長のためには、家庭・学校・地域が常に連携・協働し、教育活動や地域行事に取り組んで行くことが必要不可欠である。

さらに、豊浜小学校区は児童数も少なく、「子は地区の宝」という雰囲気があり、地域住民に学校行事などの協力等を依頼しても、「学校のためなら」と協力していただきたり、技術や物品を快く貸していただきたりする。また、以前から豊浜地区家庭教育推進協議会や豊浜地区体育協会などが主催の地域行事にも、豊浜小P T Aとして積極的に参加・協力するなど、三者の協力体制が比較的整っている地区でもある。

豊浜地区の地域性をふまえ、次のような仮説のもと、実践に取り組むこととした。

家庭・学校・地域が良好な関係を築き 常に連携・協働しながら教育活動や地域活動を支援していけば、健全な児童が育つであろう。

3 実践活動の概要

(1) 地域共催豊浜小学校大運動会

毎年9月下旬の土曜日に開催している。どこの小学校でも、運動会は学校行事の一大イベントとして位置付けられているが、豊浜地区では地区運動会と校内運動会を併合し、豊浜地区体育協会とも協力しながら、小学校、PTA、地域住民が参加する「地域共催」型の運動会として実施している。種目は、児童が活動する種目がメインであるが、PTAが主催する「デカパンリレー」などの親子競技や豊浜地区体育協会が主催し、地域住民が参加する「パン食い競争」、「須佐踊り」や保育園児の「徒競走」などがあり、当日は豊浜地区の「お祭り」という雰囲気が感じられる。

PTAの主な役割としては、PTA種目の指揮・運営をはじめとして、来校者の駐車場案内や競技準備と片付けの補助などになるが、「地域共催」という名前のように、学校・家庭・地域の一体感をととても感じられる行事である。

しかしながら、令和2年度は新型コロナウイルス感染防止の観点から、規模を縮小して行わなければならなかった。来年度は従来 of 開催方法で実施できることを望んでいる。



【親子競技】

(2) なかよし講座

毎年6月下旬の土曜日に、学校公開日として「ふれあい学級」が開かれる。各学年の授業参観のあと、「なかよし講座」を開催し、親子で参加する実技研修として、PTA研修部を中心に、学校側と協力して企画・準備・運営を行っている。講座の種類も多く、どれも文化講座顔負けの本格的な内容で、和菓子



【カローリング】

作り、カラーリング、ハーバリウム体験、ヨガ体験等々8講座を開催した。

P T Aの活動としては、講座を担当する講師探しに始まり、講師との連絡調整や、参加人数の確認と調整、会場の準備や材料等の発注、当日の司会進行と取り回し、事後アンケートの配付・回収・集計まで多岐にわたるが、先生方とも協力しながら行っていく。特に苦勞するのが講師探しで、例年、P T A会員の方でお願いしているが、それだけでは足りない場合も多く、その時には、豊浜小学校区の方を中心に講師をお願いしている。地域のみなさんは協力的で、「小学校のためなら」と快く引き受けていただける。

参加した保護者からは「1時間ではもったいない。これをきっかけに続けたい。」「来年以降も続けてほしい」などの感想も聞かれた。地域の暖かさと団結力の強さを感じることのできる取組である。



【ヨガ体験】

残念ながら、令和2年度については、新型コロナウイルス感染防止の観点から、なかよし講座は中止した。

(3) 資源物回収（春・秋）

毎年5月と10月の2回、P T A委員、教職員、児童生徒（小学生は4年生以上）で、資源物回収を行っている。春は、校区内にあるプラスチック団地内で出た段ボールを中心に、役員と教職員のみで回収作業を行う。秋は豊浜小学校、豊浜中学校の児童生徒も参加して、各通学団地区に分かれて回収作業を行っている。校区が広いため、各地区から選出されたP T A委員さんの協力が不可欠な行事である。児童生徒は協力して、自分の住んでいる地域を回って回収作業を行う。地域住民も毎年の行事なので、資源物を貯めておいてくれていて、児童生徒が回収に訪れると、たくさんの紙類をだしてくれる。子どもたちも成果がはっきりと目に見えるので、とても意欲的に取り組んでいる。秋晴れの下、児童生徒、両校P T A、小中教職員、地域住民が協力して行うこの行事は、豊浜地区の一体感を強く感じることのできる行事である。



【資源物回収】

収益金は、公費ではなかなか購入できないユニフォームなどの部活動関連のものや熱中症対策にあてる消耗品など、児童のために有効に活用している。

(4) ふれあい歩け歩け大会

毎年1月中旬、豊浜地区家庭推進協議会（家推協）が主催する「ふれあい歩け歩け大会」に豊浜小PTAとして参加・協力している。全長約7kmのコースを、親子や友達と協力しながら、途中に設けられたいくつかのチェックポイントでの問題をクリアしながら歩くスタンプラリー形式のハイキングである。

一概にハイキングといっても、運営側は、道路の使用許可から炊き出しの準備や食材の購入、交通整理から参加賞の準備、記録写真等々、多くの協力者と準備が必要となる。豊浜地区の子どもたちのために、家推協、豊浜小PTA、豊浜中PTA、豊浜中学校の生徒、小中学校教員、体協など豊浜小校区の各種団体が協力して、この行事の運営が行われている。冬の恒例行事となっている歩け歩け大会であるが、資源物回収同様、豊浜地区が一丸とならないと成功しない行事であり、家庭・学校・地域が良好な関係を築き、常に連携・協働しながら豊浜地区の子どもたちを育てていこうという気持ちを強く感じられる行事である。



【歩け歩け大会コース】



【大会風景】

4 おわりに

前述の仮説をもとに実践・検証を行ってきたが、令和2年度はコロナ禍によって例年と同じような活動ができず、規模の縮小や内容の変更などを行って活動してきた。そんな中でも豊浜地区の方たちは理解を示していただき、「できる範囲でやればいい」「学校がやりやすい形でいい」といっていただけたのはとてもありがたかった。また児童も自分たちのやれることに精いっぱい取り組み、その姿で保護者や地域を元気にさせることができた。

昨今、PTA活動の意義についての議論を耳にするようになった。現在豊浜小学校は、家庭・学校・地域が互いに協働しながら、よい形で活動できる環境にある。この環境に安心せず、常にPDCAサイクルを意識しながら、PTA活動を持続発展させていきたい。